

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担 当 教 員	岩田 淳	実務経験と その関連資格	島根大学医学部(医学英語教育学講座)に勤務			
《授業科目における学習内容》						
医療現場でよく使われる医学英語の専門用語、会話表現、略語等をリスニングやロールプレイなどをまじえた演習を通じて学習し、理学療法士として必要な基本的な英語コミュニケーション能力を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、小テスト、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Because We Care: English for Healthcare Professionals, Second Edition (ナショナルジオグラフィックラーニング・センゲージラーニング株式会社出版)						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。授業後確認作業をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
テキスト中心に進めて行くので、忘れずに持参すること。また、英和辞書(電子辞書可)を持参すること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	病院のフロア、医療専門の職業を理解する		テキスト 配付資料	今回の授業内容を予習 しておくこと。	
	各コマに おける 授業予定	Introduction: Hospital Floors and Healthcare Professionals				
第2回	授業を 通じての 到達目標	体の部位名、方位の英語表現を理解する		テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定され た範囲を復習すること。 また、今回の授業内容を 予習しておくこと。	
	各コマに おける 授業予定	Unit 1: Body Parts				
第3回	授業を 通じての 到達目標	筋骨格系に関する英語表現を理解する		テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定され た範囲を復習すること。 また、今回の授業内容を 予習しておくこと。	
	各コマに おける 授業予定	Unit 2: Musculoskeletal System				
第4回	授業を 通じての 到達目標	循環器系に関する英語表現を理解する		テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定され た範囲を復習すること。 また、今回の授業内容を 予習しておくこと。	
	各コマに おける 授業予定	Unit 3: Circulatory System				
第5回	授業を 通じての 到達目標	呼吸器系に関する英語表現を理解する		テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定され た範囲を復習すること。 また、今回の授業内容を 予習しておくこと。	
	各コマに おける 授業予定	Unit 4: Respiratory System				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器系に関する英語表現を理解する	テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定された範囲を復習すること。また、今回の授業内容を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Unit 5: Digestive System		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳・神経・感覚器系に関する英語表現を理解する	テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定された範囲を復習すること。また、今回の授業内容を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Unit 6: Brain, Nervous System and Sensory System		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器系に関する英語表現を理解する	テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定された範囲を復習すること。また、今回の授業内容を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Unit 7: Urinary System		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	生殖器系に関する英語表現を理解する	テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定された範囲を復習すること。また、今回の授業内容を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Unit 8: Reproductive System		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌系に関する英語表現を理解する	テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定された範囲を復習すること。また、今回の授業内容を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Unit 9: Endocrine System		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害に関する英語表現を理解する	テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定された範囲を復習すること。また、今回の授業内容を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Unit 10: Mental Disorders		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	がんに関する英語表現を理解する	テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定された範囲を復習すること。また、今回の授業内容を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Unit 11: Cancer		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	一次救命処置と二次救命処置に関する英語表現を理解する	テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定された範囲を復習すること。また、今回の授業内容を予習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Unit 12: BLS and ALS		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーションに関する英語表現を理解する	テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定された範囲を復習すること。
		各コマにおける授業予定	Unit 13: Rehabilitations		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事と栄養に関する英語表現を理解する	テキスト 小テスト 配布資料	前回の授業で指定された範囲を復習すること。□
		各コマにおける授業予定	Unit 14: Diet and Nutrition		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	PC教室
担 当 教 員	馬庭 春樹	実務経験とその関連資格	急性期病院にて理学療法士として勤務。内部障害など多岐にわたる疾患を経験。島根県理学療法士会では教育部で研究活動の普及・啓発活動を行っている。			
《授業科目における学習内容》						
情報科学社会にある現代の個人情報の意味や課題などを学び、情報収集する際の取り扱いの意味や注意事項を理解する。さらに、コンピュータの基本構成・動作を理解し、効果的伝達方法の活用方法を学ぶ。Windowsの基本操作、ワープロ、表計算、インターネット利用及び簡単なデータベースについて学び、実習する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、小テスト、課題提出、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
情報モラル&情報セキュリティ 情報リテラシWindows7/Office2010						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。授業後確認作業をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
テキスト中心に進めて行くので、忘れずに持ってくること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	コンピュータシステムの基本構成について学び、説明できるようになる。	テキスト	コンピュータシステムについてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	コンピュータシステムの基本構成			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ログイン等のコンピュータの基礎知識について学び、実施できるようになる。	テキスト	コンピュータの基礎知識についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	コンピュータの基礎知識1(ログイン等)			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	キーボードの操作等のコンピュータの基礎知識について学び、実施できるようになる。	テキスト	コンピュータの基礎知識についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	コンピュータの基礎知識2(キーボードの操作等)			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ローマ字入力とかな変換について学び、実施できるようになる。	テキスト	ローマ字入力とかな変換についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	ローマ字入力とかな変換			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	電子メールシステムについて学び、実施できるようになる。	テキスト	電子メールシステムについてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	電子メールシステム			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	Wordについて学び、実施できるようになる。	テキスト	Wordについてのテキストの 箇所を読んでおく。
		各コマにおける 授業予定	Word 1		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	Wordについて学び、実施できるようになる。	テキスト	Wordについてのテキストの 箇所を読んでおく。
		各コマにおける 授業予定	Word 2		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	Excellについて学び、実施できるようになる。	テキスト	Excellについてのテキストの 箇所を読んでおく。
		各コマにおける 授業予定	Exel 1		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	Excellについて学び、実施できるようになる。	テキスト	Excellについてのテキストの 箇所を読んでおく。
		各コマにおける 授業予定	Exel 2		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	Power Pointについて学び、実施できるようになる。	テキスト	Power Pointについての テキストの箇所を読んで おく。
		各コマにおける 授業予定	Power Point 1		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	Power Pointについて学び、実施できるようになる。	テキスト	Power Pointについての テキストの箇所を読んで おく。
		各コマにおける 授業予定	Power Point 2		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	プレゼンテーションの資料作成について学び、実施できるようになる。	テキスト	プレゼンテーションの資料 作成についてのテキ ストの箇所を読んで おく。
		各コマにおける 授業予定	プレゼンテーションの資料作成		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	インターネットの検索について学び、実施できるようになる。	テキスト	インターネットの検索に ついてのテキストの箇所 を読んでおく。
		各コマにおける 授業予定	インターネットの検索1		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	インターネットの検索について学び、実施できるようになる。	テキスト	インターネットの検索に ついてのテキストの箇所 を読んでおく。
		各コマにおける 授業予定	インターネットの検索2		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	病院情報システムについて学び、説明できるようになる。	テキスト	病院情報システムにつ いてのテキストの箇所 を読んでおく。
		各コマにおける 授業予定	病院情報システムについて		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担 当 教 員	高清水 直美	実務経験と その関連資格	島根大学にて工学分野の教育・研究実績がある。			
《授業科目における学習内容》						
人体の運動における物理的作用とその影響を学び、動作・運動の基礎となる物理的知識を身につける						
《成績評価の方法と基準》						
出席・課題の提出・小テスト筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
基礎運動学 第6版 補訂						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。授業後確認作業をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
各回の授業は連続性があるため、毎回確実に理解し、次週に備えること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	物理量と単位について理解し、説明できるようになる。		テキスト 配付資料	授業内容をA4 1枚にま とめる	
	各コマに おける 授業予定	物理量と単位 国際単位系 角度の単位 接頭語 単位変換				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	速度と加速度について理解し、説明できるようになる。		テキスト 配布資料(事前 の配布資料も含 む)	授業内容をA4 1枚にま とめる	
	各コマに おける 授業予定	速度と加速度(1) 等速直線運動 等加速度直線運動				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	物体の運動を式とグラフで表せる。		テキスト 配布資料(事前 の配布資料も含 む)	授業内容をA4 1枚にま とめる	
	各コマに おける 授業予定	速度と加速度(2) 物体の運動の式とグラフ				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	物体に働く力と運動の関係、運動の3法則について理解し、説 明できるようになる。		テキスト 配布資料(事前 の配布資料も含 む)	授業内容をA4 1枚にま とめる	
	各コマに おける 授業予定	力と運動の法則 力と運動 力の単位 運動の3法則				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	ベクトルとは何か、力の合成と分解、力のつりあいについて理解 し、説明できるようになる。		テキスト 配布資料(事前 の配布資料も含 む)	授業内容をA4 1枚にま とめる	
	各コマに おける 授業予定	ベクトルとその計算 スカラーとベクトル 力の合成と分解 力のつりあい				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	重力による運動について理解し、説明できるようになる。	テキスト 配布資料(事前の配布資料も含む)	授業内容をA4 1枚にまとめる
		各コマにおける授業予定	重力による運動 重力加速度 重力による落下運動 重力による斜面上の運動		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	摩擦による運動について理解し、説明できるようになる。	テキスト 配布資料(事前の配布資料も含む)	授業内容をA4 1枚にまとめる
		各コマにおける授業予定	摩擦による運動 垂直抗力 摩擦力 摩擦がある面の上の運動		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ばねの運動について理解し、説明できるようになる。	テキスト 配布資料(事前の配布資料も含む)	授業内容をA4 1枚にまとめる
		各コマにおける授業予定	ばねの運動 弾性力 フックの法則		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	力のモーメントについて理解し、説明できるようになる。	テキスト 配布資料(事前の配布資料も含む)	授業内容をA4 1枚にまとめる
		各コマにおける授業予定	力のモーメント 回転運動 力のモーメント		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	てこの原理と人体での作用例について理解し、説明できるようになる。	テキスト 配布資料(事前の配布資料も含む)	授業内容をA4 1枚にまとめる
		各コマにおける授業予定	てことその応用 てこの原理 てこの種類 人体での作用例		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	力と仕事について理解し、説明できるようになる。	テキスト 配布資料(事前の配布資料も含む)	授業内容をA4 1枚にまとめる
		各コマにおける授業予定	力と仕事 仕事とは何か 仕事と仕事率		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	仕事とエネルギーについて理解し、説明できるようになる。	テキスト 配布資料(事前の配布資料も含む)	授業内容をA4 1枚にまとめる
		各コマにおける授業予定	仕事とエネルギー エネルギーとは何か 運動エネルギーと位置エネルギー		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	仕事と熱量について理解し、説明できるようになる。	テキスト 配布資料(事前の配布資料も含む)	授業内容をA4 1枚にまとめる
		各コマにおける授業予定	仕事と熱量 熱とは何か 熱量とエネルギー 熱量保存		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	総合演習問題を解くことにより講義全体を理解する。	テキスト 配布資料(事前の配布資料も含む)	授業内容をA4 1枚にまとめる
		各コマにおける授業予定	総合演習(1)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	総合演習問題を解くことにより講義全体を理解する。	テキスト 配布資料(事前の配布資料も含む)	授業内容をA4 1枚にまとめる
		各コマにおける授業予定	総合演習(2)		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担 当 教 員	鈴木 操 新井 篤史 門脇 康浩	実務経験と その関連資格	鈴木:短期大学での教員経験と、スポーツに関する研究実績がある。 新井:医療機関で臨床工学技士として勤務 門脇:医療機関で言語聴覚士として勤務			
《授業科目における学習内容》						
現代医療における臓器移植、尊厳死など生と死の問題から生命倫理、人の尊厳を幅広く学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100点)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
他者とのコミュニケーションを図り、多様な価値観を共有し理解できるように心掛ける。						
《履修に当たっての留意点》						
多様な価値観の中で医療従事者だけではなく、患者の立場に立った思考をもてるようにする(笑)						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	伝統的な医の倫理と現代の医の倫理の違いが理解できる	配布資料	特になし	
		各コマに おける 授業予定	「医の倫理 倫理学とは」の講義、グループワーク			
第2回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	医療における規則・義務などの情報についての他の班の意見を共有できる	配布資料	前回の講義について理解していること	
		各コマに おける 授業予定	規則・義務・倫理的ディレンマについての講義、グループワーク			
第3回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	無加害・善行・公正(正義)について説明できる	配布資料	前回の講義について理解していること	
		各コマに おける 授業予定	倫理原理についての講義、グループワーク			
第4回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	インフォームドコンセントについての他の班の意見を共有できる	配布資料	前回の講義について理解していること	
		各コマに おける 授業予定	インフォームドコンセントについての講義、グループワーク			
第5回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	パターンリズムを理解できる	配布資料	前回の講義について理解していること	
		各コマに おける 授業予定	パターンリズムについての講義、グループワーク			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	自己決定主義と共同体主義を代理出産のGWを通して理解できる	配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定	「倫理委員会・自己決定主義と共同体主義」・「代理出産」についての講義、グループワーク		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	功利主義と義務論の違いについて説明できる。秘密保持は、各専門職の法律の何条にあるかを知る。	配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定	功利主義と義務論、秘密保持についての講義、グループワーク		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	カルテ開示、医による危害について理解し説明できる	配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定	カルテ開示・医による危害についての講義、グループワーク		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	実験研究の倫理について説明できる	配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定	実験研究の倫理についての講義、グループワーク		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	出生前診断の事例を通して優生思想を理解できる	配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定	優生思想についての講義、グループワーク		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	生殖操作・出生前診断についての他の班の意見を共有できる	配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定	生殖操作・出生前診断についての講義、グループワーク		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	遺伝子診断・治療についての他の班の意見を共有できる	配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定	遺伝子診断・治療についての講義、グループワーク		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	臓器移植についての他の班の意見を共有できる	配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定	臓器移植についての講義、グループワーク		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	実験研究の倫理について説明できる	配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定	実験研究の倫理についての講義、グループワーク		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	緩和ケアやホスピスについて意見を共有できる	配布資料	前回の講義について理解していること
		各コマにおける授業予定	緩和ケア、ホスピスについての講義、グループワーク		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301 他
担 当 教 員	鈴木 操	実務経験と その関連資格	短期大学での教員経験と、スポーツに関する研究実績がある。			
《授業科目における学習内容》						
運動生理学的観点から、身体運動のメカニズム、テーピングや栄養指導などの知識・技術を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、小テスト、課題の提出、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
やさしいスポーツ医科学の基礎知識						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。授業後確認作業をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問等を行う。テキストを持ってくること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツにおける健康管理やスポーツ文化について説明できる	テキスト	健康とは、健康維持に必要な活動量についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	スポーツ医学・スポーツ社会学			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	セルフストレッチングやストレッチング指導ができる	テキスト	身体組織と体脂肪についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	コンディショニング			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体機能とトレーニングについて説明できる	テキスト	肥満の種類と測定実習についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	スポーツ指導論、スポーツ生理学			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	足関節障害に応じたテーピングを施すことができる 膝関節障害に応じたテーピングを施すことができる	テキスト	ダイエットにおける食事と運動の意義・エネルギー消費量の評価についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	テーピング(足関節)・テーピング(膝関節)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動学習・動機付け、集団やこころの健康について説明できる 栄養と運動・エネルギー・水分補給の必要性について説明できる	テキスト	体力測定についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	スポーツ心理学・スポーツ栄養学			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301 他
担 当 教 員	鈴木 操	実務経験と その関連資格	短期大学での教員経験と、スポーツに関する研究実績がある。			
《授業科目における学習内容》						
運動生理学的観点から、介護予防や認知症予防、転倒予防などの高齢者トレーニングについて学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、小テスト、課題の提出、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
介護予防運動トレーナーテキスト メディカルフィットネス協会						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。授業後確認作業をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問等を行う。テキストを持ってくること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	低栄養の予防について説明できる		テキスト	予習や復習を行い、疑問点などを調べておくこと	
	各コマに おける 授業予定	低栄養予防論				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	失禁予防について説明できる		テキスト	予習や復習を行い、疑問点などを調べておくこと	
	各コマに おける 授業予定	失禁予防理論				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	転倒予防論について説明できる		テキスト	予習や復習を行い、疑問点などを調べておくこと	
	各コマに おける 授業予定	転倒予防理論				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	高齢者筋力向上トレーニング理論について説明できる		テキスト	予習や復習を行い、疑問点などを調べておくこと	
	各コマに おける 授業予定	高齢者筋力向上トレーニング理論				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	介護予防の概論について説明できる		テキスト	予習や復習を行い、疑問点などを調べておくこと	
	各コマに おける 授業予定	介護予防概論				

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	海外
担 当 教 員	馬庭 春樹	実務経験と その関連資格	理学療法士として急性期病院に勤務経験あり。呼吸認定療法士取得。島根大学医学部において医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
米国の理学療法、リハビリテーションの実践に携わる施設を訪問し、国際化社会に対応する知識を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、課題取り組み姿勢、課題提出などから総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
配布資料等を用いて国内外の職種や文化の違いを調べておく。						
《履修に当たっての留意点》						
携行品に不備が無いようにする。また体調管理に留意する。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	日本における理学療法の役割や働き方について説明できるようになる。	配布資料	配布資料や文献を用いて日本の理学療法について調べておく。	
		各コマに おける 授業予定	日本の理学療法について ①			
第 2 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	日本における理学療法の役割や働き方について説明できるようになる。	配布資料	配布資料や文献を用いて日本の理学療法について調べておく。	
		各コマに おける 授業予定	日本の理学療法について ②			
第 3 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	日本における理学療法の役割や働き方について説明できるようになる。	配布資料	配布資料や文献を用いて日本の理学療法について調べておく。	
		各コマに おける 授業予定	日本の理学療法について ③			
第 4 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	日本における理学療法の役割や働き方について説明できるようになる。	配布資料	配布資料や文献を用いて日本の理学療法について調べておく。	
		各コマに おける 授業予定	日本の理学療法について ④			
第 5 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	日本における理学療法の役割や働き方について説明できるようになる。	配布資料	配布資料や文献を用いて日本の理学療法について調べておく。	
		各コマに おける 授業予定	日本の理学療法について ⑤			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	海外における理学療法の役割や働き方について学ぶ。	配布資料	配布資料や文献を用いて海外の理学療法について調べておく。
		各コマにおける 授業予定	海外の理学療法について ①		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	海外における理学療法の役割や働き方について説明できるようになる。	配布資料	配布資料や文献を用いて海外の理学療法について調べておく。
		各コマにおける 授業予定	海外の理学療法について ②		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	海外における理学療法の役割や働き方について説明できるようになる。	配布資料	配布資料や文献を用いて海外の理学療法について調べておく。
		各コマにおける 授業予定	海外の理学療法について ③		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	海外における理学療法の役割や働き方について説明できるようになる。	配布資料	配布資料や文献を用いて海外の理学療法について調べておく。
		各コマにおける 授業予定	海外の理学療法について ④		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	海外における理学療法の役割や働き方について説明できるようになる。	配布資料	配布資料や文献を用いて海外の理学療法について調べておく。
		各コマにおける 授業予定	海外の理学療法について ⑤		
第11回	演習 実習形式	授業を通じての 到達目標	現地の講師・学生とのコミュニケーションが図れるようになる。また国内外の文化について説明できるようになる。	配布資料	配布資料等を用いて語学学習をしておく。
		各コマにおける 授業予定	国際学習・国際交流 ①		
第12回	演習 実習形式	授業を通じての 到達目標	現地の講師・学生とのコミュニケーションが図れるようになる。また国内外の文化について説明できるようになる。	配布資料	配布資料等を用いて語学学習をしておく。
		各コマにおける 授業予定	国際学習・国際交流 ②		
第13回	演習 実習形式	授業を通じての 到達目標	現地の講師・学生とのコミュニケーションが図れるようになる。また国内外の文化について説明できるようになる。	配布資料	配布資料等を用いて語学学習をしておく。
		各コマにおける 授業予定	国際学習・国際交流 ③		
第14回	演習 実習形式	授業を通じての 到達目標	現地の講師・学生とのコミュニケーションが図れるようになる。また国内外の文化について説明できるようになる。	配布資料	配布資料等を用いて語学学習をしておく。
		各コマにおける 授業予定	国際学習・国際交流 ④		
第15回	演習 実習形式	授業を通じての 到達目標	現地の講師・学生とのコミュニケーションが図れるようになる。また国内外の文化について説明できるようになる。	配布資料	配布資料等を用いて語学学習をしておく。
		各コマにおける 授業予定	国際学習・国際交流 ⑤		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担 当 教 員	小林 雅人	実務経験と その関連資格	大学および大学院で心理学を専攻(修士課程修了)			
《授業科目における学習内容》						
グループワークなどで、患者・利用者等との良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、小テスト、課題提出、医療面接演習、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと						
《履修に当たっての留意点》						
医療人として働くために欠かせないコミュニケーション能力を養って欲しい						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療人としての心構えについて理解し、説明することができる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	コミュニケーションにつ いて調べてくる	
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションとコミュニケーション力			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの種類、メタ認知能力について理解し、説明 できる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含め て、コミュニケーションに ついて調べていく	
		各コマにおける授業予定	協同作業を通じたコミュニケーション			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	自己概念について理解し、説明することができるようになる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含め て、コミュニケーションに ついて調べていく	
		各コマにおける授業予定	媒介物を用いた自己紹介			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	自己概念について理解し、説明することができるようになる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含め て、コミュニケーションに ついて調べていく	
		各コマにおける授業予定	心身相関			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	自己概念について理解し、説明することができるようになる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含め て、コミュニケーションに ついて調べていく	
		各コマにおける授業予定	自分を理解する(心の天気)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	自己概念について理解し、説明することができるようになる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含めて、コミュニケーションについて調べていく
		各コマにおける授業予定	自分を理解する(心の天気予報)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	観察技法を理解し、行なうことができるようになる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含めて、コミュニケーションについて調べていく
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション力を伸ばす1(聴き方の持ち味)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	観察技法を理解し、行なうことができるようになる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含めて、コミュニケーションについて調べていく
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション力を伸ばす 2(同上)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自己概念について理解し、説明することができるようになる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含めて、コミュニケーションについて調べていく
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション力を伸ばす 3(リソース発見)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	自己概念について理解し、説明することができるようになる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含めて、コミュニケーションについて調べていく
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション力を伸ばす 4(プチどん底体験)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	伝わる伝えかたの基本をマスターし、実践できる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含めて、コミュニケーションについて調べていく
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション力を伸ばす 5(リフレーミング)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	伝わる伝えかたの基本をマスターし、実践できる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含めて、コミュニケーションについて調べていく
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション力を伸ばす 6(同上)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床で役立つコミュニケーションスキルを学び、実践できる	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含めて、コミュニケーションについて調べていく
		各コマにおける授業予定	自分を理解する2(エゴグラム)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	観察技法から人の内面を読み取ることができるようになる①	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含めて、コミュニケーションについて調べていく
		各コマにおける授業予定	解決志向コミュニケーション1		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	観察技法から人の内面を読み取ることができるようになる①	PT・OTのための これで安心 コミュニケーション 実践ガイド	前回の授業内容を含めて、コミュニケーションについて調べていく
		各コマにおける授業予定	解決志向コミュニケーション2		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	302
担当教員	富田 幹彦	実務経験とその関連資格	福祉事務所でのケースワーカー。障害者支援施設(身体・知的)・重症心身障害児者施設・障害者就労継続支援事業所(精神)での相談業務及び運営管理。成年後見人。 資格=社会福祉士、精神保健福祉士			
《授業科目における学習内容》						
社会保障制度のうち、社会福祉における各分野の実態と課題を知り、それに対する施策を学ぶと共に、医療現場、地域社会等多様な現場で展開される社会福祉実践の共通基盤として、援助の種類や方法を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100点)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会福祉						
《授業外における学習方法》						
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で指摘した箇所について理解を確かなものにする ・社会の様々な事象に触れた際、授業で学んだことを想起すること 						
《履修に当たっての留意点》						
<ul style="list-style-type: none"> ・講義中の「例え話」から教科書に記載されている内容の本質を理解すること。 ・熱い思いを受け止めて欲しい!! 						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者福祉について、その実態と課題を知り、それに対する施策については、介護保障施策と併せて総合的に理解する	教科書	事前通知の事項について、教科書の中から見つけておくこと	
		各コマにおける授業予定	社会福祉の分野とサービス(高齢者福祉)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉について、その実態と課題を知り、それに対する施策を理解する	教科書	同上	
		各コマにおける授業予定	社会福祉の分野とサービス(障害者福祉)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉について、その実態と課題を知り、それに対する施策を理解する	教科書	同上	
		各コマにおける授業予定	社会福祉の分野とサービス(障害者福祉)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童家庭福祉について、その実態と課題を知り、それに対する施策を理解する	教科書	同上	
		各コマにおける授業予定	社会福祉の分野とサービス(児童家庭福祉)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	援助について学ぶ。医療現場、地域社会など多様な現場で展開される社会福祉実践の共通基盤として、援助が必要な場面、援助の方法について理解する	教科書	同上	
		各コマにおける授業予定	社会福祉の実践と医療・看護(援助技術)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療・看護と社会福祉の関連を学び、職種間での連携の重要性を理解する。	教科書	同上
		各コマにおける授業予定	社会福祉の実践と医療・看護(援助技術)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	職種間連携、機関間連携等において、それぞれの役割を活かした援助が出来るよう具体的な連携方法について理解する 我が国と諸外国の社会福祉の歴史について、時代ごとの社会的背景や生活支援の特徴を学び、その時代の社会のあり方や生活上の問題、福祉の理念と関連付けた理解をする	教科書	同上
		各コマにおける授業予定	社会福祉の実践と医療・看護(連携)、社会福祉の歴史		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	「社会福祉制度のポイント」としてまとめた項目を復習理解する	教科書 ポイント要約表	これまでの事前通知項目を振り返っておくこと
		各コマにおける授業予定	振り返り		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第		授業を通じての到達目標			

15 回	各コマに おける 授業予定		
---------	---------------------	--	--

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年次		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担当教員	小林 雅人	実務経験とその関連資格	大学および大学院で心理学を専攻(修士課程を修了)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>多岐にわたる心理学分野の主領域に触れ、心理学を概観する。基礎的な実験やレポート作成を通じて、科学的に心を扱うことの意義を知る。人間の行動および心の働きを様々な視点から捉えられるようにする。科学的に心を扱う基本的態度・意義を理解する。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>筆記試験(90点)、実験レポート(10点)の合計点で評価する</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>講義は配付資料をもとに進める。 【教科書】「ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 ころを科学する10のアプローチ」講談社 【参考図書】「言語聴覚士のための心理学」医歯薬出版</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>授業外学習は教科書を用いた復習に重点を置く。 ただし、実験を行う回は事前準備が必須であるため、事前準備をしっかりと行った上で講義に臨むこと。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>本講義を受講することによって、「学問」としての心理学がどのようなものであるかを正しく理解し、心理学に対してさらに興味関心が広がっていくことを期待する。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理学における主要な学派を列挙し、その学派と関連のある人物名を対応させて述べるができる。	教科書、配付資料	教科書第1章と照らし合わせながら、配付資料で示した内容を中心に復習をする。	
		各コマにおける授業予定	心理学とは 心理学総論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚における様々な現象を列挙し、それぞれの概要を説明できる。	教科書、配付資料	教科書第4章と照らし合わせながら、配付資料で示した内容を中心に復習をする。	
		各コマにおける授業予定	感覚・知覚心理学概論			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	記憶の3過程を列挙し、それぞれの概要を説明できる。	教科書、配付資料	教科書第5章と照らし合わせながら、配付資料で示した内容を中心に復習をする。	
		各コマにおける授業予定	認知心理学概論 記憶①			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	記憶の分類を列挙し、それぞれの概要を説明できる。	教科書、配付資料	教科書第5章と照らし合わせながら、配付資料で示した内容を中心に復習をする。	
		各コマにおける授業予定	記憶②			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理学における「学習」という言葉の意味を正しく理解し説明できる。	教科書、配付資料	教科書第2章と照らし合わせながら、配付資料	

5 回	表 形 式	各コマに おける 授業予定	学習心理学概論	教科書、配付資 料	むせながら、配付資料 で示した内容を中心に 復習する。
--------	-------------	---------------------	---------	--------------	-----------------------------------

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理学における古典的実験について、その背景となる理論や関心のある現象を理解し、実験の流れを自分の言葉で説明できる。	教科書、配付資料	実験概要と実験の流れを理解し、教示文も作成しておく。
	各コマにおける授業予定	鏡映描写の実験 概要説明と実験準備			
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	心理学分野で求められる実験での厳粛な手続きを知り、それを実際に実施できる。	教科書、配付資料	実験で得たデータおよび内観報告をまとめて、次回の授業時に持参する。
	各コマにおける授業予定	鏡映描写の実験 実施			
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実験データの取り扱い方を知り、統計的に処理ができる。	教科書、配付資料	実験レポート作成に向け、生データをExcelに入力する。
	各コマにおける授業予定	鏡映描写の実験 結果の処理			
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	心理学分野で求められる所定の形式に沿ってレポートを作成できる。	教科書、配付資料	講義内容を踏まえ実験レポートを作成し、期日までに提出する。
	各コマにおける授業予定	心理学 実験レポートの体裁と書き方			
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差を求めることができる。	教科書、配付資料	講義中で紹介した事例について、白紙の状態からもう一度求めて復習する。
	各コマにおける授業予定	心理統計学の基礎①			
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	標準化、正規分布を理解し、標準得点、偏差値を求めることができる。	教科書、配付資料	講義中で紹介した事例について、白紙の状態からもう一度求めて復習する。
	各コマにおける授業予定	心理統計学の基礎②			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	条件づけと動機づけの機序を対比して説明できる。	教科書、配付資料	配付資料に示した動機づけの機序をまとめ直して復習する。
	各コマにおける授業予定	情動・動機づけ			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な防衛機制を列挙し、それぞれの概要を説明できる。	教科書、配付資料	配付資料に示した主要な防衛機制をまとめ直して復習する。
	各コマにおける授業予定	ストレスと適応			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要な精神障害を列挙し、それぞれの概要を説明できる。	教科書、配付資料	配付資料に示した主要な精神障害をまとめて復習する。
	各コマにおける授業予定	異常心理学概論			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前半15回までの重要概念やキーワードについて説明できる。	教科書、配付資料	配付資料を元に、重要

15 回	表 形 式	各コマに おける 授業予定	15回の総まとめ	教科書、配付資 料	事項をまとめて復習す る。
---------	-------------	---------------------	----------	--------------	------------------

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	前期	教室名	301教室
担 当 教 員	石井 徹	実務経験と その関連資格	島根大学名誉教授(もと人間科学部教授)			
《授業科目における学習内容》 様々な科学的知見を素に私たちのすばらしさを紹介してゆきます。紹介するのは心理学や社会学を始めとして、小学校で習った理科や中学校の生物、さらには脳科学や考古学等々の知見を考えています。そんなこんなを通して私たちがいま持っている精密で巧妙な仕組みを改めて見ていただきます。私たちとは、受講生のみなさんや私はもとより、各自のご家族、ご近所や地域の方々プラスそれを越えた人々、すなわちまだ知らない地域の人々やこれから出会う人たちも含まれます。一つでもたくさんをめざして私たちの精巧なすばらしさをご覧いただく予定です。						
《成績評価の方法と基準》 筆記試験の成績を基礎とします。各自が理解した内容を各自の言葉で回答して下さい。一問25点満点の問題を6・7個構える予定です(得点合計が100点を超える場合には100点とします)。筆記試験の成績が合格点に及ばない場合にはふだんの受講態度等も参考にします。講義内容の復習を重視します。講義内容に関する質問などを歓迎します。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 図説心理学入門 齊藤勇編 誠信書房						
《授業外における学習方法》 講義内容についてとくに受講生同士で確認しあうことを勧めます。これを通して各自の言葉で表現することに慣れて下さい。身の回りの方々をさりげなく「観察」するクセをつけてみて下さい。						
《履修に当たっての留意点》 当科目で紹介する内容は「人間関係論」、「人間心理学」と一部重なります。さらに、個々の事例について理解の仕方が異なる場合があります。科目ごとの、理解する文脈の違いによるものです。そのつどこまめに確かめてみて下さい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族でもなく友人でもない存在「ご近所」に気付いて下さい。	講義資料+テキスト他		復習を勧めます。
		各コマにおける授業予定	総論:この先14コマの予定と試験の予定をお話します。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	奥行き知覚が説明できる	同上		同上
		各コマにおける授業予定	個人の認知特性を奥行き知覚を例に解説します。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	個人の認知特性が説明できる	同上		同上
		各コマにおける授業予定	先の講義内容を素に五感の特性と第六感を解説します。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	個人の認知特性の「社会性」がわかる	同上		同上
		各コマにおける授業予定	「条件付け」の内容と意義を解説します。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	行動形成の「社会性」がわかる	同上		同上
		各コマにおける授業予定	「道具的 condition 付け」の内容と意義を解説します。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	自発的学習の「社会性」がわかる	同上	同上
		各コマにおける授業予定	「潜在学習」・「洞察学習」・「観察学習」の内容と意義を解説します。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	「つもり」・「ごっこ」(抽象する能力)の意義がわかる	同上	同上
		各コマにおける授業予定	発達心理学と動物行動学から知見を紹介します。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	「記憶」の働き方と「社会性」がわかる	同上	同上
		各コマにおける授業予定	五感と記憶の関係, 記憶の変容について解説します。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	「間主観性」がわかる	同上	同上
		各コマにおける授業予定	社会学から「間主観性」と「構成期待」を紹介します。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	「構成期待」の「予期」がわかる	同上	同上
		各コマにおける授業予定	これまでの学習内容に含まれる「予期」を整理, 紹介します。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	日々の「無意識」, 「適応的無意識」がわかる	同上	同上
		各コマにおける授業予定	これまでの学習内容をもとに「適応的無意識」を紹介します。		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	日々の「無意識」, 「適応的無意識」の基礎がわかる	同上	同上
		各コマにおける授業予定	脳科学が示す「無意識」を紹介します。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	意識と無意識のスイッチ「ふつと変」がわかる	同上	同上
		各コマにおける授業予定	「自他×ふつと変」の奇妙な関係を解説します。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ご近所の「ふつと変」がわかる	同上	同上
		各コマにおける授業予定	社会学の「信頼」と特殊詐欺について解説します。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	世間の「ふつと変」がわかる	同上	同上
		各コマにおける授業予定	集合行動論を紹介し, パニックの条件を考えます。		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301 他
担当教員	高田 秀志	実務経験とその関連資格	理学療法士として回復期病院やデイサービス等で地域医療に従事。福祉住環境コーディネーター2級取得。地域医療政策講座にて医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
地域の特性や課題について、様々な観点から知見を得て、地域の実態から、課題を発見し、その解決策を模索する。また、その内容について、グループでまとめ、発表する。これら一連の流れの中で、地域に関する基礎知識を身につけるとともに物事に主体的に向き合う姿勢を培う。本科目では、主に島根県に注目し、その現状や実態(自然環境や地域性、歴史、文化、医療等)について学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
プレゼンにおける相互評価、振返りレポート及び教員評価(90%) 授業への取組姿勢(10%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
自らが主体的に取り組むべく、進んで地域の実情を理解し、解決にはどうしたら良いか考え悩むこと。身近な問題を深く考えることによって自分自身を成長させるという能動的な取組み姿勢が求められる。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問等を行う。テキストを持ってくること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	本科目の授業内容について説明できる	配布資料		予習・復習を行い、疑問点などを調べて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	地域の理解について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	島根県の概要について説明できる	配布資料		予習・復習を行い、疑問点などを調べて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	島根県のプロフィール			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	島根県の観光スポットの説明ができる	配布資料		予習・復習を行い、疑問点などを調べて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	島根県の観光紹介			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	島根県の仕事や産業について説明できる	配布資料		予習・復習を行い、疑問点などを調べて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	島根県の仕事・産業について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	島根県の医療・福祉について説明できる	配布資料		予習・復習を行い、疑問点などを調べて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	島根県の医療・福祉について			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301 他
担 当 教 員	高田 秀志	実務経験と その関連資格	理学療法士として回復期病院やデイサービス等で地域医療に従事。福祉住環境コーディネーター2級取得。地域医療政策講座にて医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
漠然としたボランティアのイメージをいくつかの事例を通じて、具体的なイメージとして理解する。また、ボランティアを考えることで自分と社会の接点を意識できるようにし、社会問題を自身の頭で考えられるようになり、実際の行動につなげられるようにする。そして、ボランティア経験を自分の言葉で発信し、自分のキャリア形成を考えることができる						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出(90%) 授業への取組姿勢(10%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
参考 『ボランティア論』, 藺田碩哉 編著, ヘルスシステム研究所 参考 『学生のためのボランティア論』, 岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子 編, 社会福祉法人大阪ボランティア協会 参考 『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』, 巡 静一・早瀬 昇 編著, 中央法規出版						
《授業外における学習方法》						
ボランティアがもつ意義を考え、「知ること」「考えること」「行動すること」を意識する						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問等を行う。テキストを持ってくること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	本科目の授業内容について説明できる	配布資料		予習・復習を行い、疑問点などを調べて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	ボランティア論について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ボランティア活動の歴史について説明できる	配布資料		予習・復習を行い、疑問点などを調べて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	ボランティア活動の歴史について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	ボランティア活動を始めるための準備について説明できる	配布資料		予習・復習を行い、疑問点などを調べて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	ボランティア活動を始めるために			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉協議会とボランティア活動について説明できる	配布資料		予習・復習を行い、疑問点などを調べて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	社会福祉協議会とボランティア活動			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域活動とボランティアについて説明できる	配布資料		予習・復習を行い、疑問点などを調べて授業に臨む
		各コマにおける授業予定	地域活動とボランティア			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担 当 教 員	橋本由里	実務経験と その関連資格	島根県立大学看護栄養学部に勤務			
《授業科目における学習内容》						
心理学的視点から他者が抱えている悩みへの共感や、感情的・認知的理解、人間関係の基礎的知識を深める。主な内容は、自己、対人認知、コミュニケーション、対人関係である。特に、家族、友人関係、男女関係、職場における人間関係、患者との人間関係、地域における人間関係をテーマに扱い、それぞれの人間関係の特徴を理解し、問題の多様性に着目する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席並びに課題提出状況、グループ発表で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
講師資料 発達・社会から見る人間関係 北大路書房						
《授業外における学習方法》						
配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
グループディスカッションを適宜取り入れる。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間関係論について自分の考えをまとめることができる。	講師資料 AV機器	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。	
		各コマにおける授業予定	人間関係論とは ガイダンス			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	自己とは何か、自尊心、自己概念について自分の考えをまとめることができる。	講師資料 AV機器	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。	
		各コマにおける授業予定	自己① 自己とは何か、自尊心、自己概念			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	性格の認知、向性検査について自分の考えをまとめることができる。	講師資料 AV機器	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。	
		各コマにおける授業予定	自己② 性格の認知、向性検査			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	対人魅力、印象形成について自分の考えをまとめることができる。	講師資料 AV機器	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。	
		各コマにおける授業予定	対人認知① 対人魅力、印象形成			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	自己呈示と自己開示について自分の考えをまとめることができる	講師資料 AV機器	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。	
		各コマにおける授業予定	対人認知② 自己呈示と自己開示			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	集団の認知について自分の考えをまとめることができる。	講師資料 AV機器	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。
		各コマにおける授業予定	対人認知③ 集団の認知		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法の場合のコミュニケーションについて自分の考えをまとめることができる。	講師資料 AV機器	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション①(理学療法場面)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法の場合のコミュニケーションについて自分の考えをまとめることができる。	講師資料 AV機器	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション②(理学療法場面)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自己表現について自分の考えをまとめることができる。	講師資料 AV機器	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション③(自己表現)		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	家族についてグループ発表することができる。	パワーポイント 発表原稿	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。
		各コマにおける授業予定	家族 (グループ発表)①		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	友人関係についてグループ発表することができる。	パワーポイント 発表原稿	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。
		各コマにおける授業予定	友人関係 (グループ発表)②		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	男女関係についてグループ発表することができる。	パワーポイント 発表原稿	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。
		各コマにおける授業予定	男女関係 (グループ発表)③		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	職場の人間関係についてグループ発表することができる。	パワーポイント 発表原稿	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。
		各コマにおける授業予定	職場の人間関係 (グループ発表)④		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	患者との人間関係についてグループ発表することができる。	パワーポイント 発表原稿	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。
		各コマにおける授業予定	患者との人間関係 (グループ発表)⑤		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域における人間関係についてグループ発表することができる。	パワーポイント 発表原稿	配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめ、グループ発表の準備を行う。
		各コマにおける授業予定	地域における人間関係 (グループ発表)⑥		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担 当 教 員	太田 珠代 ほか	実務経験と その関連資格	小児系医療機関で、理学療法士として運動療法等を提供。教会活動においてスポーツ分野にも携わる。認定理学療法士(学校教育)を取得。			
《授業科目における学習内容》						
人体の構造と機能を有機的に繋ぎ、系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、そして器官の機能、人体における役割を系統的に学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
出席および課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック						
《授業外における学習方法》						
解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
解剖生理学ワークブックを事前にしておいて下さい。講義範囲はテキストを読んでおいて下さい。講義終了毎に確認テスト又は小レポート提出があります。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖生理学で何を学ぶのか明確にすることができる。 人体の構造と区分、部位と器官について説明することができる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
		各コマにおける授業予定	人体の構造と機能について、解剖学と生理学の歴史と現在、形からみた人体			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞の構造と機能、細胞がつくる組織、動物機能と植物機能の器官について説明することができる	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
		各コマにおける授業予定	細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギーの生成、細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体、分化した細胞がつくる組織、機能からみた人体			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨格、関節、骨格筋について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
		各コマにおける授業予定	骨格とは、骨の連結、骨格筋			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	背部・胸部・腹部の筋について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
		各コマにおける授業予定	体幹の骨格と筋			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨格と筋について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
		各コマにおける授業予定	上肢の骨格と筋			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の骨格と筋について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	下肢の骨格と筋①		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の骨格と筋について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	下肢の骨格と筋②		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部の骨格と筋について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	頭頸部の骨格と筋②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔・咽頭・食道・胃の構造と機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	口の構造と機能、咽頭と食道の構造と機能、胃の構造と機能		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	小腸・大腸の構造と機能、栄養素の消化と吸収について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	小腸・大腸の構造と機能、栄養素の消化と吸収		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	脾・肝・胆・腹膜の構造と機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	脾・肝・胆・腹膜の構造と機能		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の構造と機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	呼吸器の構造、呼吸		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液の組成と機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板、血液型		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓の構造と心臓の拍出機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	心臓の構造、心臓の興奮とその伝播		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	血管の構造・肺循環・体循環が説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	末梢血管系の構造、リンパとリンパ管		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担 当 教 員	松崎 健太郎 住吉 愛里	実務経験と その関連資格	島根大学医学部において、生理学講座に勤務			
《授業科目における学習内容》						
<p>人体の構造と機能の知識は、医療に携わる者にとって基本になる重要な学問である。各器官の果たしている機能・役割を系統的に学び、根拠に基づいた理学療法の評価・治療を行うための基本的知識となる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
出席、課題提出、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第9版 系統看護学講座 準拠解剖生理学ワークブック</p>						
《授業外における学習方法》						
事前に指定の教科書を読んでおく。事前に配布した「練習問題」の復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問、小テスト等行う。事前配付の資料を忘れない。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生理学導入、細胞の機能と構造について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	生理学導入、細胞の機能と構造についての教科書の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	生理学導入、細胞の機能と構造			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞膜の機能と構造、自律神経について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	細胞膜の機能と構造、自律神経についての教科書の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	細胞膜の機能と構造、自律神経について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器の構造、神経支配、口腔内・胃での消化について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	消化器の構造、神経支配、口腔内・胃での消化についての教科書の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	消化器の構造、神経支配、口腔内・胃での消化			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	小腸、大腸での消化について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	小腸、大腸での消化についての教科書の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	小腸、大腸での消化			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸の機能と構造について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	呼吸の機能と構造についての教科書の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	呼吸の機能と構造			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸の機能と構造について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	呼吸の機能と構造についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	呼吸の機能と構造(スパイロメーターなど)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸の機能と構造について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	呼吸の機能と構造についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	呼吸の機能と構造(酸素分圧、pHについて)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液の機能と構造について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	血液の機能と構造についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	血液の機能と構造		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液凝固について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	血液凝固についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	血液凝固について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環系の分類、血液の循環について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	循環系の分類、血液の循環についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	循環系の分類、血液の循環		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓の興奮について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	心臓の興奮についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	心臓の興奮		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	心電図について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	心電図についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	心電図について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	血圧に関係する因子について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	血圧に関係する因子についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	血圧に関係する因子		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	心周期について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	心周期についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	心周期について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	今まで学んだ内容について、説明できるようになる。	教科書 配付資料	今まで学んだ内容についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301
担 当 教 員	落合 美枝	実務経験とその関連資格	病院にて手術室・救急外来・内科・整形・消化器外科病棟に勤務。看護師長をしていた。			
《授業科目における学習内容》						
<p>人体の構造と機能を有機的に繋ぎ、系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、そして器官の機能、人体における役割を系統的に学ぶ。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>出席および課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する。</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>解剖生理学ワークブックを事前にしておいて下さい。講義範囲はテキストを読んでおいて下さい。講義終了毎に確認テスト又は小レポート提出があります。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌と外分泌の説明ができる。 内分泌腺と内分泌細胞について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
		各コマにおける授業予定	内分泌系による調節、全身の内分泌腺と内分泌細胞			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ホルモン分泌の調節とその実際について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
		各コマにおける授業予定	ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎臓の構造と機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
		各コマにおける授業予定	腎臓の構造と機能について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	排尿路の構造と体液の調節について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
		各コマにおける授業予定	排尿路の構造と機能 体液の調節			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	生殖器について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート	
		各コマにおける授業予定	男性生殖器、女性生殖器			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	受精と胎児の発生について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	受精と胎児の発生、成長と老化		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の構造と機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	神経系の構造と機能、脊髄と脳		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳の高次機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	脳の高次機能		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動機能と下行伝道路について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	運動機能と下行伝道路		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚機能と上行伝道路について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	感覚機能と上行伝道路		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	自律神経の構造と機能について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	自律神経の構造と機能		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経と脳神経について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	脊髄神経と脳神経①		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経と脳神経について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	脊髄神経と脳神経②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	目の構造と視覚、耳の構造と聴覚・平衡覚について説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	目の構造と視覚 耳の構造と聴覚・平衡覚		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	味覚と嗅覚、痛みについて説明できる。	解剖生理学 解剖生理学ワークブック 人体模型	解剖生理学ワークブックを用いて予習・復習を行う。 確認テストまたは小レポート
		各コマにおける授業予定	味覚と嗅覚、痛み		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	後期	教室名	301
担 当 教 員	松崎 健太郎 濱 徳行	実務経験と その関連資格	島根大学医学部において、生理学講座に勤務			
《授業科目における学習内容》						
<p>人体の構造と機能の知識は、医療に携わる者にとって基本になる重要な学問である。各器官の果たしている機能・役割を系統的に学び、根拠に基づいた理学療法の評価・治療を行うための基本的知識となる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>出席、課題提出、小テスト、筆記試験で総合的に評価する。</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第9版 系統看護学講座 準拠解剖生理学ワークブック</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>事前に指定の教科書を読んでおく。事前に配布した「練習問題」の復習を行う。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>授業中に口頭試問、小テスト等行う。事前配付の資料を忘れない。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	体液の調節と尿の生成について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	体液の調節と尿の生成についての教科書の箇所を読んでおく。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	体液の調節と尿の生成			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿に関係するホルモン、尿の生成について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	尿に関係するホルモン、尿の生成についての教科書の箇所を読んでおく。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	尿に関係するホルモン、尿の生成			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌機能による調節について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	内分泌機能による調節についての教科書の箇所を読んでおく。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	内分泌機能(自律神経系による調節)による調節			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌機能による調節について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	内分泌機能による調節についての教科書の箇所を読んでおく。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	内分泌機能(内分泌系による調節)による調節			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌機能による調節について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	内分泌機能による調節についての教科書の箇所を読んでおく。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	内分泌機能(内分泌系による調節)による調節			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	体の支持と運動について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	体の支持と運動についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	体の支持と運動		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の収縮様式について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	筋の収縮様式についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋の収縮様式		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報の受容と処理について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	情報の受容と処理についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	情報の受容と処理(末梢)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報の受容と処理について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	情報の受容と処理についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	情報の受容と処理(中枢)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報の受容と処理について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	情報の受容と処理についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	情報の受容と処理(脳神経)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報の受容と処理について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	情報の受容と処理についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	情報の受容と処理(特殊感覚)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報の受容と処理について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	情報の受容と処理についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	情報の受容と処理(特殊感覚2)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	外部環境からの防御に関係する構造と機能について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	外部環境からの防御に関係する構造と機能についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	外部環境からの防御に関係する構造と機能		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	体温とその調節について学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	体温とその調節についての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	体温とその調節		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	生殖発生と老化のしくみについて学び、説明できるようになる。	教科書 配付資料	生殖発生と老化のしくみについての教科書の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	生殖発生と老化のしくみ		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担当教員	馬庭 春樹	実務経験とその関連資格	理学療法士として急性期病院に勤務経験あり。呼吸認定療法士取得。島根大学医学部において医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
理学療法士は「運動」を扱う。そのため、動きに関係する骨・筋の知識は必須である。また、筋への指令に関する神経系、動きを感じるための感覚系についても熟知しておく必要がある。本科目では特に「骨」について視覚的観察と触覚的観察を中心に学習し、「運動」がどのように行なわれているのかを理解することが目的である。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験を以て評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
リハビリテーションビジュアルブック 標準理学療法士・作業療法士 解剖学(第4版)						
《授業外における学習方法》						
教科書等を用いて講義内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書等の忘れ物に注意し、課題の提出期限も厳守すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	全身の各部の名称を説明することができる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	全身の区部、身体の名称について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体の位置について説明することができる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	身体の位置について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体の方向・断面について説明することができる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	身体の方向、断面について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の形態や構造、またその専門用語が説明できるようになる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	骨の形態、用語、構造について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨・関節の機能や構造が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	

5 回	形式	各コマに おける 授業予定	骨の機能、関節構造と機能について	教科書	内容の箇所を読んでお く。
--------	----	---------------------	------------------	-----	------------------

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨について名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	上肢の骨について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の関節の名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	上肢の関節について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の靭帯について名称・役割が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	上肢の靭帯について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の動きについて名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	上肢の動きについて		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の特徴が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	上肢の特徴について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の骨について名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	下肢の骨について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の関節について名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	下肢の関節について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の靭帯について名称・役割が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	下肢の靭帯について		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の動きについて名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	下肢の動きについて		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の特徴について説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	下肢の特徴について		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担 当 教 員	馬庭 春樹	実務経験と その関連資格	理学療法士として急性期病院に勤務経験あり。呼吸認定療法士取得。島根大学医学部において医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
理学療法士は「運動」を扱う。そのため、動きに関係する骨・筋の知識は必須である。また、筋への指令に関する神経系、動きを感じるための感覚系についても熟知しておく必要がある。本科目では特に「筋」について視覚的観察と触覚的観察を中心に学習し、「運動」がどのように行なわれているのかを理解することが目的である。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験を以て評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
リハビリテーションビジュアルブック 標準理学療法士・作業療法士 解剖学(第4版)						
《授業外における学習方法》						
教科書等を用いて講義内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書等の忘れ物に注意し、課題の提出期限も厳守すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部・脊柱・胸郭の骨について名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	頭部、脊柱、胸郭の骨について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部・脊柱・胸郭の関節について名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	頭部、脊柱、胸郭の関節について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の構造や収縮様式を説明する事ができる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	筋組織、筋構造、筋収縮について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋について各名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	上肢筋の名称について			
第5回	講義	授業を通じての到達目標	上肢の筋について起始の名称が説明できる。		教科書等を用いて講義	

5 回	形式	各コマに おける 授業予定	上肢筋の起始について	教科書	内容の箇所を読んでおく。
--------	----	---------------------	------------	-----	--------------

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋について停止の名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	上肢筋の停止について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢筋の作用が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	上肢筋の作用について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢筋の特徴について説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	上肢筋の特徴について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋について各名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	下肢筋の名称について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋について起始の名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	下肢筋の起始について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋について停止の名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	下肢筋の停止について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢筋の作用が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	下肢筋の作用について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢筋の特徴について説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	下肢筋の特徴について		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部・脊柱・胸郭の筋について各名称が説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	頭部、脊柱、胸郭の筋の名称について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部・脊柱・胸郭の作用について説明できる。	教科書	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	頭部、脊柱、胸郭の作用について		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301 他
担 当 教 員	高田 秀志	実務経験と その関連資格	理学療法士として回復期病院やデイサービス等で地域医療に従事。福祉住環境コーディネータ2級取得。地域医療政策講座にて医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
運動器(筋、骨)の構造が、生体において、どのように機能しているか理解する。運動によって起こる反応を知る。本科目では、運動学の概論に加え、筋の起始停止について、理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験70%、出席5%、小テスト25%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
基礎運動学 第6版						
《授業外における学習方法》						
事前に指定の教科書を読んでおく。事前に配布した「練習問題」の復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問、小テスト等行う。事前配付の資料を忘れない。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	運動学の必要性を説明できる		テキスト 配付資料	運動学概論を自分の言葉で説明できるようにA4 1枚にまとめる	
	各コマにおける授業予定	運動学の必要性				
第2回	授業を通じての到達目標	力学の計算方法を覚える		テキスト 配付資料	J-Webを使用した国家試験の「力学」の過去問題を解く	
	各コマにおける授業予定	運動の力学の計算方法				
第3回	授業を通じての到達目標	力学の計算方法を使って問題を解く		テキスト 配付資料	J-Webを使用した国家試験の「力学」の過去問題を解く	
	各コマにおける授業予定	運動の力学の計算方法の応用				
第4回	授業を通じての到達目標	骨の部位を述べることができる		テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える	
	各コマにおける授業予定	体幹の骨の部位				
第5回	授業を通じての到達目標	骨の部位を述べることができる		テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える	
	各コマにおける授業予定	上肢の骨の部位				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節の種類を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	関節の種類、動き		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	各関節の動きを述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	各関節の動き		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	肩関節の筋の起始・停止		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘関節、前腕、手関節の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	肘関節、前腕、手関節の筋の起始・停止		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	体幹前面の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	体幹前面の筋の起始・停止		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	体幹後面の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	体幹後面の筋の起始・停止		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	股関節の筋の起始・停止		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節・足関節の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	膝関節・足関節の筋の起始・停止		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークの中で筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	自分の体でも表現できるように覚えやすい道具やノートを作成する
		各コマにおける授業予定	グループワークにて筋の起始・停止のまとめ		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークにて骨模型を使用して筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	自分の体でも表現できるように覚えやすい道具やノートを作成する
		各コマにおける授業予定	グループワークにて骨模型を使用して筋の起始・停止		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301 他
担 当 教 員	高田 秀志	実務経験と その関連資格	理学療法士として回復期病院やデイサービス等で地域医療に従事。福祉住環境コーディネータ2級取得。地域医療政策講座にて医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
運動器(筋、骨)の構造が、生体において、どのように機能しているか理解する。運動によって起こる反応を知る。本科目では、主に筋や靭帯の作用について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験70%、出席5%、小テスト25%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
基礎運動学 第6版						
《授業外における学習方法》						
事前に指定の教科書を読んでおく。事前に配布した「練習問題」の復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問、小テスト等行う。事前配付の資料を忘れない。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	肩関節の各筋の運動作用を述べることができる		テキスト 配付資料	筋の絵を描き、筋の起始・停止を覚える	
	各コマにおける授業予定	肩関節の各筋の運動作用				
第2回	授業を通じての到達目標	肘関節・前腕・手関節の各筋の運動作用を述べることができる		テキスト 配付資料	筋の絵を描き、筋の起始・停止を覚える	
	各コマにおける授業予定	肘関節・前腕・手関節の各筋の運動作用				
第3回	授業を通じての到達目標	股関節の各筋の運動作用を述べることができる		テキスト 配付資料	筋の絵を描き、筋の起始・停止を覚える	
	各コマにおける授業予定	股関節の各筋の運動作用				
第4回	授業を通じての到達目標	膝関節の各筋の運動作用を述べることができる		テキスト 配付資料	筋の絵を描き、筋の起始・停止を覚える	
	各コマにおける授業予定	膝関節の各筋の運動作用				
第5回	授業を通じての到達目標	足関節の各筋の運動作用を述べることができる		テキスト 配付資料	筋の絵を描き、筋の起始・停止を覚える	
	各コマにおける授業予定	足関節の各筋の運動作用				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	体幹前面の各筋の運動作用を述べることができる	テキスト 配付資料	筋の絵を描き、筋の起始・停止を覚える
		各コマにおける授業予定	体幹前面の各筋の運動作用		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	体幹後面の各筋の運動作用を述べることができる	テキスト 配付資料	筋の絵を描き、筋の起始・停止を覚える
		各コマにおける授業予定	体幹後面の各筋の運動作用		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	顔の表情から作用する筋名を答えることができる	テキスト 配付資料	自らの顔で筋名を言われたらその表情にできるようにする
		各コマにおける授業予定	顔面筋の運動・作用		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動によって呼吸器・循環器の変化を説明できる	テキスト 配付資料	形態機能学Ⅰ～Ⅳの授業(呼吸器・循環器)を復習する
		各コマにおける授業予定	運動と呼吸・循環		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動によって中枢神経機構の変化を説明できる	テキスト 配付資料	形態機能学Ⅰ～Ⅳの授業(中枢神経)を復習する
		各コマにおける授業予定	運動と中枢神経機構		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	姿勢や姿勢観察のポイントを理解することができる	テキスト 配付資料	体表解剖学Ⅰの触診の技術を復習する
		各コマにおける授業予定	姿勢について		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	他者の姿勢観察を行い、姿勢の分析を述べることができる	テキスト 配付資料	体表解剖学Ⅰの触診の技術を復習する
		各コマにおける授業予定	グループワークにて姿勢、姿勢観察実践		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	歩行の各相の動きを述べる事ができる	テキスト 配付資料	動作学での歩行の項目を復習する
		各コマにおける授業予定	歩行の各相について		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	歩行の各相の動きがなぜおこるのか理解する	テキスト 配付資料	各相からその歩行を模倣できるように復習する
		各コマにおける授業予定	歩行の関節の動き		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	歩行時の重心の位置について述べる事ができる	テキスト 配付資料	歩行の各相で何筋が使用されるか復習する
		各コマにおける授業予定	歩行と重心		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301 他
担 当 教 員	太田 珠代 佐藤 千晃	実務経験と その関連資格	安平:小児系医療機関で、理学療法士として運動療法等を提供。教会活動においてスポーツ分野にも携わる。認定理学療法士(学校教育)を取得。 佐藤:島根大学附属病院 リハビリテーション部で作業療法士として勤務			
《授業科目における学習内容》 理学療法士は「動作」を観察・分析、記録する能力が重要で、具体的には正常、異常の姿勢・動作の基礎を理解すると同時に、姿勢・動作の観方を理解し表現できることである。 本科目では力学的基礎から学び、正常姿勢・動作、異常姿勢・動作について演習を通して知識獲得および能力修得をする。						
《成績評価の方法と基準》 筆記試験を以て評価する。(安平分:65% 佐藤分:35%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践						
《授業外における学習方法》 教科書を用いて講義内容の予習・復習する。						
《履修に当たっての留意点》 教科書の忘れ物、また実技練習においては服装や自身の体調管理に留意する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	姿勢・動作観察の必要性について説明できるようになる。	教科書		教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	姿勢・動作観察の必要性について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	基本姿勢・動作について説明できるようになる。	教科書		教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	基本姿勢と基本動作について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	寝返り動作の概要とメカニズムが説明できるようになる。	教科書		教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	寝返り動作1 概要とメカニズム			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	寝返り動作の観察と記録ができるようになる。	教科書		教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	寝返り動作2 観察と記録			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	起き上がり動作の概要とメカニズムが説明できるようになる。	教科書		教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	起き上がり動作1 概要とメカニズム			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	起き上がり動作の観察と記録ができるようになる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	起き上がり動作2 観察と記録		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	起立動作の概要とメカニズムが説明できるようになる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	起立動作の1 概要とメカニズム		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	起立動作の観察と記録ができるようになる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	起立動作2 観察と記録		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	歩行の概要とメカニズムが説明できるようになる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	歩行1 概要とメカニズム		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	歩行の観察と記録ができるようになる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	歩行2 観察と記録		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	座位の基本姿勢が説明できるようになる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	座位の基本姿勢		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	ベッド上のポジショニングについて説明できるようになる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	ベッド上のポジショニング		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	移乗動作について説明できるようになる。	教科書 車いす	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	移乗動作の基本		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	車いすのシーティングについて実施できるようになる。	教科書 車いす クッション	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	車いすシーティング1 基礎		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	車いすのシーティングについて実施できるようになる。	教科書 車いす クッション	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	車いすシーティング2 応用		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301
担 当 教 員	石野 陽子	実務経験と その関連資格	島根大学教育学部 初等教育開発講座に勤務。			
《授業科目における学習内容》						
人間の発達を、社会的・心理学的・神経学的・運動発達学的側面から学ぶ。また、理学療法士として必要な人間発達の知識を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、小テスト、課題提出、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問等行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間発達学、発達心理学総論について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	人間発達学、発達心理学総論についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	人間発達学、発達心理学総論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体、姿勢、移動動作の発達について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	身体、姿勢、移動動作の発達についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	身体、姿勢、移動動作の発達			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	眼と足の協調の発達について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	眼と足の協調の発達についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	眼と足の協調の発達			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知機能、言語、社会性の発達について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	認知機能、言語、社会性の発達についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	認知機能、言語、社会性の発達			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事動作の発達について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	食事動作の発達についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	食事動作の発達			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄行動の発達について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	排泄行動の発達についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄行動の発達		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	更衣、整容動作の発達について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	更衣、整容動作の発達についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	更衣、整容動作の発達		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	遊びの発達について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	遊びの発達についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	遊びの発達		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	胎生期について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	胎生期についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	胎生期		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児期について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	乳児期についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	乳児期		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児期について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	幼児期についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	幼児期		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童期について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	児童期についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	児童期		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	青年期について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	青年期についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	青年期		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	壮年期について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	壮年期についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	壮年期		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年期について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	老年期についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	老年期		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	基礎医学実習室 他
担 当 教 員	太田 珠代 ほか	実務経験とその関連資格	小児系医療機関で、理学療法士として運動療法等を提供。教会活動においてスポーツ分野にも携わる。認定理学療法士(学校教育)を取得。			
《授業科目における学習内容》						
人の様々な生理学的現象を実習を通して理解する。機器の使い方に慣れていく。グループディスカッションを通して、グループの意見をまとめ、理解し発表する力をつける。(主にレポートの書き方・血圧演習・脈拍演習・体温演習を行う)						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況20%、授業態度40%、レポート課題40%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
生理学実習NAVI						
《授業外における学習方法》						
形態機能学 I～IVの復習、運動学の復習をする						
《履修に当たっての留意点》						
形態機能学 I～IV、運動学の教科書を忘れずにもってくる						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	授業の概要概要について理解する	配付資料	事前にレポートの書き方を調べておく	
		各コマにおける授業予定	授業の概要			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	レポートの書き方、グループワークの大切さを理解する	テキスト 配付資料	バイタルサインについてA4 1枚にまとめる事ができる	
		各コマにおける授業予定	レポートの書き方			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	血圧・脈拍測定について理解する	テキスト 配付資料	バイタルサインについてA4 1枚にまとめる事ができる	
		各コマにおける授業予定	目的、生理学的現象			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	血圧・脈拍測定を自ら実習の計画をたて、事前準備をして実施できる	テキスト 配付資料	自ら作成した計画書を頭の中に入れて時系列で流れを作成する	
		各コマにおける授業予定	測定方法の説明(講義)、役割分担について			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	血圧・脈拍測定の事前準備をして実施できる	テキスト 配付資料	自ら作成した計画書を頭の中に入れて時系列で流れを作成する	
		各コマにおける授業予定	準備・計測			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	血圧・脈拍測定を実施できる	テキスト 配付資料	自ら作成した計画書を頭の中に入れて時系列で流れを作成する
	各コマにおける授業予定	データのもれがないか確認し実施する		
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	自らとった、データをまとめ考察することができる	テキスト 配付資料	図を使用して結果を整理する
	各コマにおける授業予定	発表のまとめ		
第8回	講義形式 授業を通じての到達目標	自らとった、データをまとめ考察することができる	テキスト 配付資料	図を使用して結果を整理する
	各コマにおける授業予定	発表のまとめ		
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	他者にわかりやすいように発表ができる	テキスト 配付資料	周りの意見をまとめて振り返ることができる
	各コマにおける授業予定	血圧・脈拍測定の発表		
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	体温について理解する	テキスト 配付資料	バイタルサインについてA4 1枚にまとめる事ができる
	各コマにおける授業予定	目的、生理学的現象、測定方法の説明、役割分担		
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	自ら実習の計画をたて、事前準備をして実施できる	テキスト 配付資料	自ら作成した計画書を頭の中に入れて時系列で流れを作成する
	各コマにおける授業予定	体温についての計測		
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	自ら実習の計画をたて、事前準備をして実施できる	テキスト 配付資料	自ら作成した計画書を頭の中に入れて時系列で流れを作成する
	各コマにおける授業予定	体温測定のデータのもれがないか確認し実施する		
第13回	講義形式 授業を通じての到達目標	自らとった、データをまとめ考察することができる	テキスト 配付資料	図を使用して結果を整理する
	各コマにおける授業予定	体温測定発表のまとめ		
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	自らとった、データをまとめ考察することができる	テキスト 配付資料	図を使用して結果を整理する
	各コマにおける授業予定	体温測定発表のまとめ		
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	他者にわかりやすいように発表ができる	テキスト 配付資料	周りの意見をまとめて振り返ることができる
	各コマにおける授業予定	体温測定の発表		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	基礎医学実習室 他
担 当 教 員	馬庭 春樹	実務経験とその関連資格	理学療法士として急性期病院に勤務経験あり。呼吸認定療法士取得。島根大学医学部において医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
人の様々な生理学的現象を実習を通して理解する。機器の使い方に慣れていく。グループディスカッションを通して、グループの意見をまとめ、理解し発表する力をつける。(主に呼吸演習・心電図演習・筋電図演習・重心動揺計演習等を行う)						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況20%、授業態度40%、レポート課題40%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
生理学実習NAVI						
《授業外における学習方法》						
形態機能学 I～IVの復習、運動学の復習をする						
《履修に当たっての留意点》						
形態機能学 I～IV、運動学の教科書を忘れずにもってくる						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸について理解する	テキスト 配付資料	バイタルサインについてA4 1枚にまとめる事ができる	
		各コマにおける授業予定	目的、生理学的現象、測定方法の説明、役割分担			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	自ら実習の計画をたて、事前準備をして実施できる	テキスト 配付資料	自ら作成した計画書を頭の中に入れて時系列で流れを作成する	
		各コマにおける授業予定	呼吸の計測			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自ら実習の計画をたて、事前準備をして実施できる	テキスト 配付資料	自ら作成した計画書を頭の中に入れて時系列で流れを作成する	
		各コマにおける授業予定	呼吸測定のデータのもれがないか確認し実施する			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自らとった、データをまとめ考察する事ができる	テキスト 配付資料	図を使用して結果を整理する	
		各コマにおける授業予定	呼吸測定の発表のまとめ			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	他者にわかりやすいように発表ができる	テキスト 配付資料	周りの意見をまとめて振り返ることができる	
		各コマにおける授業予定	呼吸測定の発表			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	心電図の目的、方法などを把握する	テキスト 配付資料	心臓の構造・機能についてA4 1枚にまとめる事ができる
	各コマにおける授業予定	心電図の目的、生理学的現象、測定方法の説明、役割分担		
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	自ら実習の計画をたて、事前準備をして実施できる	テキスト 配付資料	心臓の構造・機能についてA4 1枚にまとめる事ができる
	各コマにおける授業予定	心電図の計測		
第8回	講義形式 授業を通じての到達目標	他者との心電図の波形の違いについて述べる事ができる	テキスト 配付資料	心臓の構造・機能についてA4 1枚にまとめる事ができる
	各コマにおける授業予定	グループワークにて心電図の違いについて調べる		
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	解析装置の使用について学ぶことができる	テキスト 配付資料	バランス・姿勢・重心についてA4 1枚にまとめる事ができる
	各コマにおける授業予定	目的、生理学的現象		
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	自ら実習の計画をたて、事前準備をして実施できる	テキスト 配付資料	自ら作成した計画書を頭の中に入れて時系列で流れを作成する
	各コマにおける授業予定	解析装置の測定方法の説明、役割分担		
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	筋電図に関する実習の計画をたて、事前準備をして実施できる	テキスト 配付資料	自ら作成した計画書を頭の中に入れて時系列で流れを作成する
	各コマにおける授業予定	筋電図の測定		
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	重心動揺計に関する実習の計画をたて、事前準備をして実施できる	テキスト 配付資料	自ら作成した計画書を頭の中に入れて時系列で流れを作成する
	各コマにおける授業予定	重心動揺計の測定		
第13回	講義形式 授業を通じての到達目標	筋力に関する実習の計画をたて、事前準備をして実施できる	テキスト 配付資料	自ら作成した計画書を頭の中に入れて時系列で流れを作成する
	各コマにおける授業予定	筋力についての測定		
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	自らとった、データをまとめ考察する事ができる	テキスト 配付資料	図を使用して結果を整理する
	各コマにおける授業予定	解析装置実習の発表のまとめ		
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	他者にわかりやすいように発表ができる	テキスト 配付資料	周りの意見をまとめて振り返ることができる
	各コマにおける授業予定	解析装置実習の発表		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301
担 当 教 員	磯村 実	実務経験と その関連資格	島根大学人間科学部で予防医学、遺伝医学、ゲノム疫学の研究を行っている			
《授業科目における学習内容》						
「疾病の成り立ち」を理解する科目である。科学的根拠に基づいた医療を実践できる基礎的能力の根幹を成す科目である。病態総論では、用語の理解、そして構造の異常、機能の異常を学ぶ。症候論と各疾患の症状・診断・治療を学ぶために、まず臓器や細胞の変化を理解する。その中で、機能障害との関連性、理学療法との関わりについても考えていく。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、課題の提出、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1]病理学						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中口頭試問等行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理学の概念について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	病理学の概念についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	イントロダクション:病理学で学ぶこと			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞・組織の障害と修復について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	細胞・組織の障害と修復についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	細胞・組織の障害と修復			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環障害について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	循環障害についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	循環障害			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	炎症と免疫について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	炎症と免疫についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	炎症と免疫			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	感染症についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	感染症			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝障害について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	代謝障害についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	代謝障害		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化と死について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	老化と死についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	老化と死		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	先天異常と遺伝子異常について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	先天異常と遺伝子異常についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	先天異常と遺伝子異常		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	腫瘍について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	腫瘍についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	腫瘍 I		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	腫瘍について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	腫瘍についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	腫瘍 II		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器系の疾患について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	循環器系の疾患についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	循環器系の疾患		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標		テキスト、配布資料	代謝障害についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	呼吸器系の疾患		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器系の疾患について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	消化器系の疾患についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	消化器系の疾患		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経系の疾患について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	脳神経系の疾患についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	脳神経系の疾患		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液、泌尿器、生殖器の疾患について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	血液、泌尿器、生殖器の疾患についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	血液、泌尿器、生殖器の疾患		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担 当 教 員	馬庭 春樹	実務経験と その関連資格	理学療法士として急性期病院に勤務経験あり。呼吸認定療法士取得。島根大学医学部において医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
理学療法の対象となる機能障害の病態や治療、回復過程について学ぶ。主に炎症・疼痛・神経損傷などについて学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験80%、出席状況10%、小テスト10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
機能障害科学入門						
《授業外における学習方法》						
各授業毎に配付した課題に取り組む。形態機能学 I～IVを理解する。						
《履修に当たっての留意点》						
テキスト、配布資料は必ず持参する						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	炎症に関する解剖・生理学を説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う	
		各コマにおける授業予定	炎症に関わる解剖生理学			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	炎症性疾患についてのメカニズムを説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う	
		各コマにおける授業予定	炎症性疾患とメカニズム			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	疼痛の解剖・生理学を説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う	
		各コマにおける授業予定	疼痛の定義と基礎			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	急性痛のメカニズムを説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う	
		各コマにおける授業予定	急性痛に関わる解剖生理学とメカニズム			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性痛のメカニズムを説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う	
		各コマにおける授業予定	慢性痛に関わる解剖生理学とメカニズム			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	創傷の解剖・生理学を説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	創傷に関わる解剖生理学		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	熱傷、褥瘡のメカニズムを説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	熱傷、褥瘡の定義とメカニズム		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	靭帯損傷、腱損傷の解剖・生理学を説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	靭帯損傷、腱損傷に関わる解剖生理学		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	靭帯損傷、腱損傷のメカニズムを説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	靭帯損傷、腱損傷の定義とメカニズム		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折の解剖・生理学を説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	骨折に関わる解剖生理学		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折のメカニズムを説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	骨折の定義とメカニズム		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋損傷の解剖・生理学を説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	筋損傷に関わる解剖生理学		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋損傷のメカニズムを説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	筋損傷の定義とメカニズム		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経損傷の解剖・生理学を説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	末梢神経損傷に関わる解剖生理学		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経損傷のメカニズムを説明できる	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	末梢神経損傷の定義とメカニズム		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301
担 当 教 員	馬庭 春樹	実務経験と その関連資格	理学療法士として急性期病院に勤務経験あり。呼吸認定療法士取得。島根大学医学部において医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
理学療法の対象となる機能障害の病態や治療、回復過程について学ぶ。主に萎縮・拘縮・協調性・意識障害などについて学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100%)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
機能障害科学入門						
《授業外における学習方法》						
事前に次の章の概要を読んでおく						
《履修に当たっての留意点》						
授業中、口頭試問を行う						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の種類、収縮のメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	筋萎縮に関わる解剖生理学			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	筋萎縮の定義とメカニズム			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節の動きとメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	関節可動域制限に関わる解剖生理学			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節可動域制限の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	関節可動域制限の定義とメカニズム、治療法			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経の伝達メカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	中枢神経の解剖生理学			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	麻痺の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	運動麻痺、感覚麻痺の定義とメカニズム		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋トーンのメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	筋トーンに関する解剖生理学		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	痙縮と固縮の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	痙縮と固縮の定義とメカニズム		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	協調性のメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	協調運動障害に関わる解剖生理学		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	協調運動障害の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	協調運動障害の定義とメカニズム		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	意識や認知のメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	意識障害に関わる解剖生理学		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	意識障害の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	意識障害の定義とメカニズム		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能の種類とメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害に関わる解剖生理学		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害の定義とメカニズム		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	機能障害についてこれまでやったことを簡潔に説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	後期	教室名	301
担 当 教 員	竹山 博泰、須佐 建央 熊倉 俊一 他	実務経験と その関連資格	竹山: 島根大学医学部 呼吸器・化学療法内科に医師として勤務 須佐: 須佐クリニックに医師として診療に従事 熊倉: 島根大学医学部 地域医療教育学に医師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
疾病の生じる因子、症状や時間の経過に伴う変化、そして治療としてどのように取り組むかを学ぶ。その中で理学療法士がどのように関わっていくかを考える基礎とする。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、課題提出、小テスト、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 成人看護学[3]循環器 成人看護学[4]血液・造血器						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問等行う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器病学の基本的知識について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。	
		各コマにおける授業予定	呼吸器病学の基本的知識			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器、アレルギーについて説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。	
		各コマにおける授業予定	呼吸器、アレルギー			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	かぜの診方について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。	
		各コマにおける授業予定	かぜの診方			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	SASについて説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。	
		各コマにおける授業予定	SAS			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	肺癌について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。	
		各コマにおける授業予定	肺癌			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器の構造と機能、病態、診断と検査について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	循環器の構造と機能、病態、診断と検査についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	【循環器】 循環器の構造と機能、病態、診断と検査		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	不整脈について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	不整脈についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	不整脈		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	大血管の疾患について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	大血管の疾患についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	大血管の疾患		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	虚血性心疾患について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	虚血性心疾患についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	虚血性心疾患		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	心不全について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	心不全についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	心不全		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液の基礎知識について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	血液の基礎知識		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	出血性疾患について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	出血性疾患		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	赤血球疾患について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	赤血球疾患		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	白血球性疾患について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	白血球性疾患(リンパ液etc)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	白血球性疾患について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	白血球性疾患		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	後期	教室名	301
担 当 教 員	飛田 博史、野津 雅和 洲村 正裕 他	実務経験と その関連資格	飛田:島根大学医学部附属病院 肝臓内科に医師として勤務 野津:島根大学医学部附属病院 内分泌代謝内科に医師として勤務 洲村:島根大学医学部附属病院 泌尿器科に医師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
疾病の生じる因子、症状や時間の経過に伴う変化、そして治療としてどのように取り組むかを学ぶ。その中で理学療法士がどのように関わっていくかを考える基礎とする。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、課題提出、小テスト、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[5]消化器 成人看護学[6]内分泌・代謝 成人看護学[8]腎泌尿器						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問等行う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	上部消化管の疾患、病態について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。	
		各コマにおける授業予定	上部消化管の疾患について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	胆嚢、膵臓の疾患について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。	
		各コマにおける授業予定	胆嚢、膵臓の疾患について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	肝臓について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。	
		各コマにおける授業予定	肝臓疾患について(非ウイルス性)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	肝疾患について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。	
		各コマにおける授業予定	肝疾患について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	下部消化管の疾患、病態について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。	
		各コマにおける授業予定	下部消化管の疾患について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌・代謝疾患、基礎的知識について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝疾患、基礎的知識		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	甲状腺、副甲状腺、性腺疾患について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	甲状腺、副甲状腺、性腺疾患		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖尿病の病態生理、治療について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	糖尿病の病態生理、治療		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝異常について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	代謝異常		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	視床下部、下垂体疾患、副腎疾患について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	視床下部、下垂体疾患、副腎疾患		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎臓の機能、腎不全についてについて説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	腎臓の機能、腎不全について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎疾患について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	腎疾患各論		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎尿路疾患について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	腎尿路疾患		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿路腫瘍について説明できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	尿路腫瘍		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎・泌尿器の基礎知識について確認できる。	テキスト AV機器	テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題解説		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301
担 当 教 員	山本 宗一郎、熊橋 伸之 門脇 俊 他	実務経験と その関連資格	山本:島根大学医学部 整形外科学教室に医師(整形外科専門医)として勤務 熊橋:島根大学医学部 整形外科学教室に医師(整形外科専門医)として勤務 門脇:島根大学医学部 整形外科学教室に医師(整形外科専門医)として勤務			
《授業科目における学習内容》						
主な運動器の疾患について、原因、病理、症状、経過、治療、注意事項、併せて障がいとの関連についても学んでいく。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、小テスト、課題の提出、筆記試験等で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
標準整形外科学 第13版						
《授業外における学習方法》						
各授業毎に配付した課題に取り組む。形態機能学 I～IVを理解する。						
《履修に当たっての留意点》						
テキスト、配布資料は必ず持参する						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の解剖学・生理学を理解し、必要な整形外科的検査を理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う	
		各コマにおける授業予定	運動器の構造と機能			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う	
		各コマにおける授業予定	骨折概要・骨粗鬆症			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う	
		各コマにおける授業予定	股関節疾患(変形性関節症を含む)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う	
		各コマにおける授業予定	スポーツ傷害、脱臼			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う	
		各コマにおける授業予定	脊椎・脊髄疾患			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	関節リウマチ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	膝関節疾患(変形性関節症を含む)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	末梢神経疾患		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	切断		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	代謝性骨疾患・障がい者スポーツ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	足関節及び足部の病態と治療		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	ロコモティブシンドローム		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	骨・軟部腫瘍		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	上肢の病態と治療(肩・肘・手関節)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	発生機序、原因、症状について理解する	テキスト 配付資料	授業時に提示された課題を行う
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	後期	教室名	301
担 当 教 員	岡田和悟、三瀧真悟 安部哲史	実務経験と その関連資格	岡田:大田シルバークリニックにて医師として勤務 三瀧、安部:島根大学医学部附属病院に医師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
脳・神経系疾患の成り立ちを主要疾患・主要症状・検査・治療・合併症・予後を含め理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100点)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【教科書】「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経」 医学書院						
《授業外における学習方法》						
教科書、資料を読んでおく。						
《履修に当たっての留意点》						
積極的な取り組みを望む。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	構造と機能、症状と病態生理、診断と治療について理解でき、説明できる。	教科書	教科書、資料を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	基礎的知識(構造と機能、症状と病態生理、診断と治療)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害の疾病、診療について理解でき、説明できる。	教科書	教科書、資料を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	主な疾病と診療 脳血管障害			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の腫瘍の疾病、診療について理解でき、説明できる。	教科書	教科書、資料を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	主な疾病と診療 神経系の腫瘍			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経障害の疾病、診療について理解でき、説明できる。	教科書	教科書、資料を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	主な疾病と診療 末梢神経障害			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経変性疾患の疾病、診療について理解でき、説明できる。	教科書	教科書、資料を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	主な疾病と診療 神経変性疾患			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	てんかんの疾病、診療について理解でき、説明できる。	教科書	教科書、資料を読んでおく
		各コマにおける授業予定	主な疾病と診療 てんかん		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳・神経系の感染症の疾病、診療について理解でき、説明できる。	教科書	教科書、資料を読んでおく
		各コマにおける授業予定	主な疾病と診療 脳・神経系の感染症		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の疾病、診療について理解でき、説明できる。	教科書	教科書、資料を読んでおく
		各コマにおける授業予定	主な疾病と診療 認知症		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	後期	教室名	301
担 当 教 員	多々納 浩	実務経験と その関連資格	島根県立大学 看護栄養学部健康栄養学科に勤務			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>人間にとっての栄養の意義、栄養と健康のかかわりについて、人間の生理機能との関連から、栄養の基本的概念と各種栄養素、栄養状態の評価、臨床栄養学としての食事療法を理解し、専門職として保健・医療の場での食に関する問題を把握・解決するための知識を習得する。主要食品の栄養学的意義を学び、各栄養素の消化・吸収について学習する。健康の維持・増進及び回復を図るための栄養学の基礎を学ぶ。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>リハベーシック 生化学・栄養学 医歯薬出版 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>テキストによる予習・復習を行う。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	生化学と栄養学の知識は対象者に安全で効果的な運動と活動を促すうえで不可欠だということを説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んでもくる。	
		各コマにおける 授業予定	リハビリテーションに活かす生化学・栄養学			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	酸化・還元反応や代謝について説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んでもくる。 授業のまとめをする。	
		各コマにおける 授業予定	生化学・栄養学に必要な基礎化学			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	蛋白質の種類と働き、アミノ酸の種類と働きについて説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んでもくる。 授業のまとめをする。	
		各コマにおける 授業予定	蛋白質とアミノ酸			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	酵素の種類と働き、ホルモンの種類と働きについて説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んでもくる。 授業のまとめをする。	
		各コマにおける 授業予定	酵素とホルモン			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	糖質の種類と代謝、脂質の種類と代謝について説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んでもくる。 授業のまとめをする。	
		各コマにおける 授業予定	糖質・脂質の代謝			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ビタミンの種類と働きについて説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んできく。 授業のまとめをする。
		各コマにおける授業予定	ビタミン		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ミネラルの種類と働きについて説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んできく。 授業のまとめをする。
		各コマにおける授業予定	ミネラル		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	栄養素の消化吸収について説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んできく。 授業のまとめをする。
		各コマにおける授業予定	消化と吸収		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	エネルギー代謝について説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んできく。 授業のまとめをする。
		各コマにおける授業予定	エネルギー代謝		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動効果を高める食事や栄養摂取について説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んできく。 授業のまとめをする。
		各コマにおける授業予定	運動と栄養		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション栄養ケアプロセスや多職種連携について説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んできく。 授業のまとめをする。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションと栄養		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	栄養スクリーニングツールや臨床検査値から栄養状態を説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他 食品交換表	教科書を読んできく。 授業のまとめをする。
		各コマにおける授業予定	栄養評価		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	主な病態や周術期の栄養管理について説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んできく。 授業のまとめをする。
		各コマにおける授業予定	病態別の栄養管理		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	栄養療法の種類や選択、エネルギー投与量について説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んできく。 授業のまとめをする。
		各コマにおける授業予定	静脈・経腸栄養法		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	嚥下障害の臨床的評価や訓練方法について説明できる。	教科書・配布資料 食品サンプル AV機器他	教科書を読んできく。 授業のまとめをする。
		各コマにおける授業予定	栄養と摂食嚥下		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	後期	教室名	301
担 当 教 員	寶大寺 淳 森川 雅貴	実務経験と その関連資格	薬剤師として、株式会社ファーマシィに勤務。			
《授業科目における学習内容》						
生体に対する薬物の作用メカニズムを学び、疾病の治療への応用や有害事象/副作用について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院 参考:臨床薬理学 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬理学総論(薬理学とは、薬理学の基礎知識)について学ぶ。	テキスト 配布資料 AV機器	テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	薬理学総論(薬理学とは、薬理学の基礎知識)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬理学各論(抗感染症薬)について説明できる	テキスト 配布資料 AV機器	テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	薬理学各論(抗感染症薬)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬理学各論(抗がん薬、免疫治療薬)について、説明できる	テキスト 配布資料 AV機器	テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	薬理学各論(抗がん薬、免疫治療薬)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬理学各論(抗アレルギー薬・抗炎症薬)について説明できる	テキスト 配布資料 AV機器	テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	薬理学各論(抗アレルギー薬・抗炎症薬)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系に作用する薬物について説明できる	テキスト 配布資料 AV機器	テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	神経系に作用する薬物			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓血管系に作用する薬物について説明できる	テキスト 配布資料 AV機器	テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。
		各コマにおける授業予定	心臓血管系に作用する薬物		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物について説明できる	テキスト 配布資料 AV機器	テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。
		各コマにおける授業予定	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝に作用する薬物 ほかを説明できる	テキスト 配布資料 AV機器	テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。
		各コマにおける授業予定	代謝に作用する薬物 ほか		
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期	教室名	301
担 当 教 員	高田 秀志	実務経験と その関連資格	理学療法士として回復期病院やデイサービス等で地域医療に従事。福祉住環境コーディネーター2級取得。地域医療政策講座にて医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
リハビリテーションの理念と基本原理、障がい論、チーム医療などについて学ぶ。また、リハビリテーションに関する各論の基礎となる知識を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
課題レポート(10%)、筆記試験(90%)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
リハビリテーション概論 改訂第3版 医学生・コメディカルのための手引書						
《授業外における学習方法》						
教科書等を用いて講義内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書等の忘れ物に注意し、課題の提出期限も厳守すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーションの概念・理念・定義について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの概念・理念・定義			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康・疾病・障害について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	健康と障害の概念と分類			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害の心理や家族心理、障害受容について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	障害の心理的・社会的視点			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション過程とリハビリテーションの諸段階について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション過程とリハビリテーションの諸段階			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリ専門職やチーム医療について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	チームアプローチ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ADL,IADL,QOLについて説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	ADL,QOLの概念と評価法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケア、医療・福祉制度について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	地域リハビリテーションと社会資源、医療・福祉制度		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者対策・健康対策・少子化対策について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	高齢者・健康対策と少子化対策		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担 当 教 員	高田 秀志	実務経験と その関連資格	理学療法士として回復期病院やデイサービス等で地域医療に従事。福祉住環境コーディネーター2級取得。地域医療政策講座にて医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
医療、リハビリテーションと理学療法の関係について倫理・哲学、歴史、法規・制度などより理学療法の概念を理解する。講義形式とともにグループワーク形式により多くのディスカッションを通して多くの意見を出し、聞くことで「理学療法」を提供する者としての理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記テストを100%として評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
15レクチャーシリーズ 理学療法概論						
《授業外における学習方法》						
教科書を用いて講義内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
課題の提出期限を厳守する事。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーションと理学療法の役割が説明できるようになる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	理学療法概要、リハビリテーションと理学療法の役割			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害の分類や保険制度が説明できるようになる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	理学療法背景1 障害、分類、保険制度			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法に関する歴史・法律・倫理について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	理学療法背景2 歴史・法律、倫理			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法の構成が説明できるようになる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	理学療法の構成			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法士に必要な知識と実習について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	理学療法士に必要な知識と実習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経系の理学療法について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	理学療法の主対象1 中枢神経系の理学療法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動器系の理学療法について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	理学療法の主対象2 運動器系の理学療法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	内部障害系の理学療法について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	理学療法の主対象3 内部障害系の理学療法		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	がん・介護予防の理学療法について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	理学療法の主対象4 がん、介護予防の理学療法		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	急性期の理学療法について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	病期・職域別理学療法1 急性期		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	回復期の理学療法について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	病期・職域別理学療法2 回復期		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	維持期の理学療法について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	病期・職域別理学療法3 維持期		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅における理学療法について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	病期・職域別理学療法4 在宅		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	行政における理学療法について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	病期・職域別理学療法5 行政		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	研究における理学療法について説明することができる。	教科書	教科書を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	病期・職域別理学療法6 研究		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301 他
担 当 教 員	高田 秀志	実務経験とその関連資格	理学療法士として回復期病院やデイサービス等で地域医療に従事。福祉住環境コーディネータ2級取得。地域医療政策講座にて医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
理学療法の実践に必要な基礎的要素を理解することにより、理学療法の全体像への理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況10%、課題提出50%、見学実習評価30%、授業態度10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
基礎から学ぶ 運動学ノート 配布資料						
《授業外における学習方法》						
その日の授業で学んだ事をどのように理解したかをA4 1枚にまとめる						
《履修に当たっての留意点》						
社会人・実習生としての基本となる授業のため、必ず身につけておく身構え・心構えという事を意識して自分のものにできるようにする						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会人としての身構え・心構えを説明できる	配付資料	その授業で習った内容をA4 1枚にまとめる	
		各コマにおける授業予定	社会人としての身構え・心構え			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療人としての身構え・心構えを説明できる	配付資料	その授業で習った内容をA4 1枚にまとめる	
		各コマにおける授業予定	医療人としての身構え・心構え			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	正しい服装を実施できる	配付資料	その授業で習った内容をA4 1枚にまとめる	
		各コマにおける授業予定	身だしなみについて			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	礼儀・挨拶について、電話のかけ方を実施できる	配付資料	あいさつ・電話のかけ方についてフローを作成する	
		各コマにおける授業予定	礼儀・挨拶について、電話のかけ方			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	お礼状を記載する事ができる	配付資料	保護者・家族にお礼状を記載する	
		各コマにおける授業予定	お礼状の書き方			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	適切な見学の状態を模倣できる		配付資料	課題(KYT)を行う
	各コマにおける授業予定	見学の仕方・マナーについて			
第7回	講義形式 授業を通じての到達目標	適切な医学用語が記載できる		配付資料	語彙読解力の問題を解く
	各コマにおける授業予定	医学用語の記載			
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	ペーパーペーシェントを通して自分の考えを表現することができる		配付資料	授業中に配付した課題への取り組み
	各コマにおける授業予定	見学から自分の考えを記載			
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	ペーパーペーシェントを通してレポートにまとめることができる		配付資料	授業中に配付した課題への取り組み
	各コマにおける授業予定	ディリーノート、スタディーノート			
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	適切な服装を示すことができる		配付資料	その授業で習った内容をA4 1枚にまとめる
	各コマにおける授業予定	服装チェック			
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	手洗い、車椅子が適切な方法で実施できる		配付資料	その授業で習った内容をA4 1枚にまとめる
	各コマにおける授業予定	手洗い、車椅子			
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	バイタルサインが適切な方法で実施できる		配付資料	その授業で習った内容をA4 1枚にまとめる
	各コマにおける授業予定	バイタルサイン			
第13回	講義形式 授業を通じての到達目標	小テストを通して必要な知識を説明できる		テキスト 配付資料	その授業で習った内容をA4 1枚にまとめる
	各コマにおける授業予定	基礎知識の定着			
第14回	講義形式 授業を通じての到達目標	実習目標を理解する		配付資料	自分の言葉に一般目標を直す
	各コマにおける授業予定	実習の一般目標			
第15回	講義形式 授業を通じての到達目標	実習目標を理解できているか確認する		配付資料	自分の言葉に目標を書き直す
	各コマにおける授業予定	実習の目標についての理解度チェック			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301 他
担 当 教 員	太田 珠代 他	実務経験と その関連資格	小児系医療機関で、理学療法士として運動療法等を提供していた。協会活動においてスポーツ分野にも携わる。認定理学療法士(学校教育)を取得。			
《授業科目における学習内容》						
理学療法における「評価」とは、理学療法を実施するために必要な患者(対象者)の情報を収集し、それを統合・解釈・判断するという重要なプロセスである。本授業はその意義と重要性について理解するとともに、理学療法の領域に関わらず実施すべき基本的な情報収集の方法について学ぶことを目標としている。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験50%、実技試験30%、小テスト(実技)20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ビジュアルレクチャー-理学療法基礎評価学 新・徒手筋力検査法 原著第9版[DVD付] 配布資料						
《授業外における学習方法》						
教科書を用いて講義内容の箇所を予習・復習する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書や検査道具の忘れ物に注意し、実技練習においては相応しい服装を準備の上取り組むこと。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法評価について説明することができる。	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	理学療法評価とは			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法における臨床意志決定過程について説明できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	スクリーニングや検査・測定、統合と解釈などの理学療法における臨床意志決定過程について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集について説明できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	情報収集とは			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	情報収集について、進め方や記録方法などを実践できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	情報収集の実際			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法に必要な医療面接を説明できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	医療面接とは			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	医療面接の進め方や方法を実践できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医療面接の実際		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法に必要なバイタルサイン測定について説明できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	バイタルサインとは		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	バイタルサイン測定の進め方や方法を実践できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン測定の実際		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301 他
担 当 教 員	太田 珠代 他	実務経験とその関連資格	小児系医療機関で、理学療法士として運動療法等を提供していた。協会活動においてスポーツ分野にも携わる。認定理学療法士(学校教育)を取得。			
《授業科目における学習内容》						
「形態測定」「関節可動域測定」「筋力測定」3項目の理学療法評価の目的、意義を理解し、正しく実施するための知識・技術を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験50%、実技試験30%、小テスト(実技)20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ビジュアルレクチャー-理学療法基礎評価学 新・徒手筋力検査法 原著第9版[DVD付] 配布資料						
《授業外における学習方法》						
教科書を用いて講義内容の箇所を予習・復習する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書や検査道具の忘れ物に注意し、実技練習においては相応しい服装を準備の上取り組むこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法に必要な形態測定を説明できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	理学療法に必要な形態計測			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	進め方や方法について説明できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	形態計測の実際			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	形態規則を学生同士で実施できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	形態計測演習			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	形態規則を学生同士で実施できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	形態計測演習			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	形態規則を学生同士で実施できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	形態計測演習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	理学療法に必要な関節可動域測定を説明できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	理学療法に必要な関節可動域測定		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	進め方や方法、記録方法について説明できる。	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	関節可動域測定の実際		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	関節可動域を学生同士で実施できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	関節可動域演習		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節可動域を学生同士で実施できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	関節可動域演習		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	関節可動域を学生同士で実施できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	関節可動域演習		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	理学療法に必要な筋力測定について説明できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	理学療法に必要な筋力測定		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	進め方や方法、記録方法について説明できる。	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋力測定の実際		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	筋力測定を学生同士で実施できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋力測定演習		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	筋力測定を学生同士で実施できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋力測定演習		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	筋力測定を学生同士で実施できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋力測定演習		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	機能訓練治療実習室
担当教員	坂田 年彦	実務経験とその関連資格	理学療法士として医療機関に勤務経験あり。協会活動でスポーツ分野にも携わる。修士(人間科学)取得。			
《授業科目における学習内容》						
肉眼解剖学の一部で、運動器を構成する骨、靭帯、神経、動脈の触察を行いその構造を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(50%)、実技試験(50%)で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢〔改訂第2版〕						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。放課後等を利用して実技練習をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
触診は理学療法評価にも繋がるため、授業以外でも繰り返し練習すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	触察の概論基本的な方法を理解し説明できる	教科書		教科書の骨の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	触察の概論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨や靭帯について理解し、説明できる	教科書		教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨・靭帯の概論			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	部分骨模型、全身像に組み上げられる	教科書		教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨模型組立			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨のランドマークが触察できる	教科書		教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(上肢帯～前腕)			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	手指の骨のランドマークが触察できる	教科書		教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(手部)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	大腿～膝の骨のランドマークが触察できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(骨盤～大腿骨)		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	膝～足趾の骨のランドマークが触察できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(大腿骨～足趾)		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	体幹の骨のランドマークが触察できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(椎骨)		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	第4回～第8回で行った触察が実施できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(上肢まとめ)		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	第4回～第8回で行った触察が実施できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	骨の触察(下肢・体幹まとめ)		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の神経が触察できる	配布プリント	解剖生理学の神経の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	神経の触察(上肢の神経)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	下肢・体幹の神経が触察できる	配布プリント	解剖生理学の神経の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	神経の触察(下肢体幹の神経)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の靭帯が触察できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	靭帯の触察(上肢)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の靭帯が触察できる	教科書	教科書の骨・靭帯の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	靭帯の触察(下肢)		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	各所で脈拍が触察できる	配布プリント	解剖生理学の動脈の部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	動脈の触察		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	機能訓練治療実習室
担当教員	坂田 年彦	実務経験とその関連資格	理学療法士として医療機関に勤務経験あり。協会活動でスポーツ分野にも携わる。修士(人間科学)取得。			
《授業科目における学習内容》						
肉眼解剖学の一部で、運動器を構成する筋の触察を行いその構造を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(50%)、実技試験(50%)で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。放課後等を利用して実技練習をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
触診は理学療法評価にも繋がるため、授業以外でも繰り返し練習すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋系の概論について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	筋系の概論についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	筋系の概論(筋の基礎)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋系の概論について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	筋系の概論についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	筋系の概論(筋の動きと起始停止)			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	股関節に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	筋の触察(肩甲骨周囲筋)			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	股関節に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	筋の触察(肩関節周囲筋)			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	肘関節に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	股関節に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	筋の触察(肘関節周囲筋)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手関節に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	股関節に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋の触察4(手関節周囲筋・手内在筋)		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	股関節に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	膝関節に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋の触察(股関節周囲筋・表在筋)		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	股関節に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	膝関節に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋の触察(股関節周囲筋・深部筋)		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	膝関節に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋の触察(大腿四頭筋)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	膝関節に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	膝関節に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋の触察(ハムストリングス)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	足関節および足部に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	足関節および足部に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋の触察9		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	足関節および足部に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	足関節および足部に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋の触察(下腿三頭筋)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	足関節および足部に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	足関節および足部に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋の触察(前脛骨筋・腓骨筋)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	体幹に関わる筋の触察について学び、説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	足関節および足部に関わる筋についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋の触察(腹筋群)		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	今まで学んだ筋について説明・触察ができるようになる。	テキスト、配布資料	下肢の筋についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋の触察(まとめ)		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301
担当教員	谷口かおり	実務経験と その関連資格	島根大学医学部 環境保健医学講座環境予防医学に勤務			
《授業科目における学習内容》 公衆衛生学の概念、方法の基礎を学ぶ。一次予防、二次予防及び三次予防の考え方にに基づき、環境諸要因が個人・集団の健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深める。疾病の予防や健康増進へのアプローチの方法等に関する知識を習得する。公衆衛生のさまざまな実践活動を学び、人々の健康を守るための組織、機関及び医療従事者の役割や機能への理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》 出席、課題提出、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生						
《授業外における学習方法》 事前に指定テキストを読んでおく。						
《履修に当たっての留意点》 授業中に口頭試問等行う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	公衆衛生の特性について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	公衆衛生の特性についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生の特性			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	公衆衛生の歴史的変遷について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	公衆衛生の歴史的変遷についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生の歴史的変遷			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	疫学の健康について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	疫学と健康についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	疫学と健康			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域での活動について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	地域での活動についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	地域での活動			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の医療制度と社会保障制度について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	日本の医療制度と社会保障制度についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	日本の医療制度と社会保障制度			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実 習
科 目 名	物理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	実習施設
担 当 教 員	高田 秀志 他	実務経験と その関連資格	理学療法士として回復期病院やデイサービス等で地域医療に従事。福祉住環境コーディネータ2級取得。地域医療政策講座にて医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
理学療法士の多様なニーズを職場の見学を通して学び、医療チームの一員としての責任を認識する。						
《成績評価の方法と基準》						
実習指導者による報告書、および臨床実習後の提出物等により評価する。 無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。また、正当な理由がなく実習時間の5分の4未満の学生は、成績評価の対象とならない。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料(実習要項 等)						
《授業外における学習方法》						
その日の実習で学んだ事を個人情報に注意し、1時間でA4 1枚にまとめ学校に提出する。						
《履修に当たっての留意点》						
実習時間を40時間で構成し、実習時間外に行う学修時間を5時間とする。 実習先は、医療提供施設及び介護保険施設 等の本校契約施設で行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
臨 床 実 習	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	職場見学を通して理学療法士の役割や専門性を理解し、チーム 医療を経験することが出来る。	配付資料	その日の実習で学んだ 事を個人情報に注意し、 1時間でA4 1枚にまとめ る。実習後に学校へ提 出する。	
		各コマに おける 授業予定	見学実習(40時間)			
		授業を 通じての 到達目標				
		各コマに おける 授業予定				
		授業を 通じての 到達目標				
		各コマに おける 授業予定				
		授業を 通じての 到達目標				
		各コマに おける 授業予定				